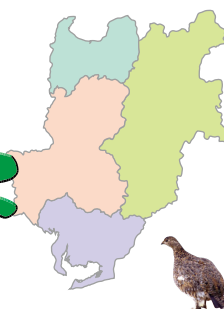




広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



長野県植樹祭で植樹を行う参加者(長野県諏訪郡富士見町)

各地で緑化行事が開催される

～豊かな緑を後世に引き継ごう～

主な項目	○「エコeco QKハウス」実演会を開催	P2
	○各地からのたより	P3
	○寄稿「森林鉄道との出会い」「鬼淵鉄橋」	P8
	○シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○シリーズ「ご当地自慢」	P10

「Eco QKハウス」 実演会を開催

「名古屋事務所」五月十五日、飛騨・世界生活文化センター（岐阜県高山市千島町）において、中部森林管理局名古屋事務所と一般社団法人名古屋林業土木協会が「木づかい」運動の一環として開発した、間伐材利用の「Eco QK（きゅうけい）ハウス」の組立作業の実演会を開催しました。

この実演会は、一般社団法人名古屋林業土木協会主催の「平成二十六年 林業土木技術講習会」の一環として行われ、治山・土木事業等の関係者、近隣の森林管理署の造林・治山事業等担当職員、報道関係者等約一六〇名が見守る中での実演となりました。



組み立ての実演中

実演は丸山製作所（岐阜県中津川市）により行われ約一時間で完成しました。「Eco QKハウス」は、岐阜県地域材利用開発プロジェクト支援加速化事業の補助も受けて開発したものであり半割丸太加工した間伐材を使用する工法を取り入れ、組み立て時間が短く、運搬も容易な設計になっています。



完成したハウスを見学する皆さん

また、ドアや窓の設置箇所等も、自由に変更可能な仕様となっているため、現場事務所・休憩所だけでなく、物置、臨時のイベントブースなど、「使う側のニーズ」により、多様な用途に対応が可能です。見学者は、ハウスを活用したシーンを想像しながら興味津々に組立作業を見学していました。こうした取り組みを積極的に実施することにより、さら

に木材利用推進の弾みになればと期待しています。



Eco QKハウス全景

木材の安定的・効率的な供給を目指し！

第回 中部地区 広域原木流通協議会を開催

「名古屋事務所」五月二十二日、TKP名古屋ビジネスセンターにおいて、第一回中部地区広域原木流通協議会（事務局 榎東海木材相互市場 代表取締役社長 鈴木和雄）が開催されました。

同協議会は、林野庁が国産材の安定的・効率的な供給体制の構築を図るため、平成二十五年に広域流通体制確立対策事業の実施主体として公募により選定された、（一財）日本木材総合情報センター（代表）、全国素材生産協同組合連

合会、全国森林組合連合会、（一社）全日本木材市場連盟の四者が、全国を八ブロックに分けて開催するとされていたものです。

協議会には、鹿児島大学農学部 遠藤日雄教授、林材ジャーナリスト 赤堀楠雄氏などの学識経験者をはじめ、林野庁、中部局名古屋事務所、県（長野・静岡・岐阜・愛知・新潟・富山・石川・福井県の八県）、各県の森林組合、林産・素材生産事業者・市場関係者、マスコミ各社等約六十余名が参加しました。

はじめに林野庁木材産業課飛山課長や情報センター代表などから趣旨や取組方向等について説明があり、その後、遠藤教授から、多様な樹種並びに大規模消費施設が集中する中部圏の木材流通形態は全国の指標になり得るとする基調講演が



挨拶を行う林野庁木材産業課 飛山課長

あり、局や各県から情勢報告等が行われました。協議会では、主に原木市況・需給見通しに関する情報の共有化をはじめ、原木の広域流通の問題点や課題、民有林と国有林との連携等を検討することとしていきます。また、原木の安定的・効率的な供給体制を構築することを目的に①木材需給情報交換会の定期的な開催、②原木安定供給研修の開催、③策定する広域流通構想の検討、承認と達成に向けた取り組み、④木材需給・価格情報の収集及び提供、⑤その他、協議会の目的を達成するために必要な活動等を行うこととしています。

各地からのたより

「ふるさとの森づくり県民の集い」 長野県植樹祭

〔南信署〕 六月七日、諏訪郡富士見町「富士見パノラマリゾート」にて、長野県、中部森林管理局、富士見町などが主催する「平成二六年度ふるさとの森づくり県民の集い（第六五回長野県植樹祭）」が、「つなげよう命の森を未来まで」を大会テーマに盛大に開催されました。

当日は、朝から雨模様で心配されましたが、開会式が始まるころには天候も回復し、地元富士見小みどりの少年団をはじめ、関係機関、林業関係者や多くの協賛企業等およそ一、四〇〇名が、コナラ

やシラカバなどの広葉樹約六千本の植樹を行いました。

作業前の式典では、皇居で採取されたエノキの種一〇〇粒をポットに蒔きました。この種は、長野県林業総合センターで育苗され、二〇一六年に長野県で開催される全国植樹祭において、翌年全国植樹祭が開催される富山県に引き継がれ、関係各県の連携により二〇一八年に福島県の海岸林復旧に役立てる予定となっています。



挨拶を行う奥田局長

会場内では、二〇店ものブースが並びジビエ料理（鹿肉串焼き）や豚汁、筍汁が参加者に提供され、好評を得ていました。特に豚の丸焼きには長蛇の列ができていました

南信署のブースでは、ニホンジカ害

対策の取り組みや治山事業を紹介するパネル、職員が制作した木工クラフトを展示し、植樹作業を終えた参加者や一般のお客さんも興味深そうに見入っていました。

また、植樹祭後、「信州山の日」（七月第四日曜日）に向けたカウントダウンイベントが、植樹会場からゴンドラで一〇



南信署のブースの様子



カウントダウンイベントの様子

分上った山頂駅レストランで開催されました。会場には、約八〇名が参加し、第一部のセレモニーでは知事等による「信州山の日」アピール宣言が行われ、林業を題材にした映画「WOOD JOB! 〜神去なあな日常〜」の矢口史靖監督が特別ゲストとして登場、山が持つ資源の情報発信の仕方を提案されていました。第二部の県政タウンミーティングは、阿部知事や学識経験者、山岳、林業関係者による意見交換が行われ、信州の山の魅力をアピールしていました。



植樹祭参加者（後列右側が奥田局長）

愛知県植樹祭

「名古屋事務所」「緑から心のやすらぎプレゼント」をテーマに、愛知県植樹祭が五月十七日、市制二十周年を迎えた日



植樹祭式典の様子

進市において、昨年開校した市立竹の山小学校・日進北中学校を会場にして盛大に開催されました。式典で大村知事から「緑化意識を高め更に緑の輪が広がることを期待します。」とあいさつがありました。

また、萩野日進市長は「日進市は大都市名古屋のベッドタウンとして発展しつづけており毎年千人ほどの子供が誕生している。緑（自然）豊かな里山も多くこれらの環境を維持し次世代の子供たちに継承していこう。」と呼びかけました。

緑化コンクール入賞校や緑化功労者等々の表彰式の後、最後に竹の山小学校と日進北中学校の児童生徒代表が「緑を育てる活動の輪をさらに大きく発展させ、将来に引き継いでいきます。」と緑



植樹を終えた山元次長（左から2人目）と関係者の皆さん

の誓いを宣言しました。式典セレモニー終了後は、校舎前においてキンモクセイやウメなど八種類、六百三十本の広葉樹を記念植樹しました。

第二十四回

「つけち森林の市」開催

【東濃署】五月三日～五日までの三日間にわたり中津川市付知町にある「道の駅花街道付知」において「つけち森林の市」が開催され、東濃署も参加しました。

このイベントは森林や木の文化のPRを目的に地元の商工会や製材・木工業者などが参加する行事として毎年開催されています。期間中は、多くの家族連れや木材業者が訪れ、製材・木工品の販売をはじめ、東濃ヒノキの家屋建前実演・即売、木の器作品コンテスト、木製ベンチを日本一の長さにつなぐ「ツナベンイベント」等を楽しみ、大変にぎやかなイベントとなりました。

東濃署のブースでは、木曽ヒノキ備林や治山事業などのパネルを展示し、国有林の役割を紹介しました。



鉛筆立てを作る子供たち

また、子供たちには、署員が手ほどきしてヒノキの丸太をのこぎりで伐り鉛筆立てを作る体験をしました。

さらに、中津川市役所のブースでは、昭和三十年代の明治神宮復興造営に、この地域の国有林から伐出された多くの木曾ヒノキが役立てられたことを紹介する写真パネルが展示され、来訪者が足を止め見入っていました。（このパネルは今年三月に、中部森林管理局が同市に贈呈したものです。）

今回の「つけち森林の市」には約二万人の来訪者があり、多くの方々に森林や木の文化に親しんでいただき、森林管理



写真パネルを熱心に見る来訪者

署や国有林について知っていただく良い機会となりました。

林業と木曽の森林を学ぶ

【木曽署】五月九日、長野県上松技術専門校訓練生四二名が小川入国有林において、熊の皮剥ぎ被害防止テープ巻き作業の林業体験を行いました。

この林業体験は本年三月に上松技術専門校、木曽官材市売協同組合及び当署の三者で締結した「職業訓練のための木曽産木材の供給と利用等に関する協定書」に基づくものです。

当日は、当署と木曽森林ふれあい推進センターが指導にあたり、「皮を剥がされた立木は成長できないし、良質な材に

もならない、今まで育てた苦労が報われなくなってしまう。」等の説明と森林技術員による作業の実演の後、訓練生が作業に入りました。

当初、訓練生は慣れない手つきで立木にビニールテープを巻いていましたが、職員のアドバイスを受けながらコツをつかみ、午前中に予定した箇所での作業を終了することができました。



熊の皮剥ぎ被害防止テープを巻く様子

午後は、赤沢自然休養林内の学術研究コースを散策し、職員の解説により、木曽ヒノキ林の成立過程や木曽の歴史などを学びました。

訓練生からは「急斜面での作業で疲れた。」「定期的な手入れと獣害の予防対策の大事さが理解できた。」「木曽の山に多くの人が関わってきたことや、厳しい気

候で育っているから、緻密な木材となることがわかった。」等感想を語っていました。



木曽署職員から説明を受ける訓練生

今後も、上松技術専門学校では、三者協定に基づき、製材工場を見学し製材品の作成過程等も学びながら技術の研鑽に役立てることをしています。

当署としては、引き続き国有林のフィールドを活用した人材育成に貢献したいと考えています。

地元高校生が治山工事現場を

見学・実習

【東濃署】五月九日、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科の三年生三九名が東濃署管内の国有林で、治山工事現場の見学・実習を行いました。

これは、地域の未来を担う高校生に、

日頃は目にする機会の少ない森林土木に對する理解を深めてもらおうと、今年度から新たに始めた取り組みです。

当日は、はじめに教室で、森林管理署の業務や治山工事について説明を受けた後、湯舟沢国有林（中津川市）の工事現場に移動しました。



姥ナギ沢を見学する高校生

恵那山の稜線に近い崩壊地で行われている姥ナギ沢復旧治山工事の現場では、斜面にワイヤーで吊された重機（ロッククライミングマシン）を使った山腹工事について説明を聞き、安全帯を装着しての法面降下を体験しました。生徒からは、「急斜面で思わず足がすくんだ。いかに危険な場所か治山工事をしているのがわかった。」「ロープを使って、山の斜面を降りていく作業は、簡単そうに見えるけど、実際に安全帯をつけてみると大変でした。」「復旧工事とは具体的に何を

するのか、どのような効果があるのか、ということがよくわかりました。」等の声が多く聞かれました。



安全帯を装着して現場体験

午後は、市街地近くのコハ清水復旧治山工事の現場で、溪間工・護岸工・山腹工の多様な工法を見学し、テストハンマーを使ったコンクリート強度推定試験の実習を行いました。「テストハンマーでコンクリートの強度を測れるなんて凄い。パネが内蔵されており、思った以上に力を使うことに驚きました。」との感想がありました。

また、今回ご協力いただいた工事請負事業体で働く同校卒業生の颯爽とした姿に触れ、話を聞くことができたことも生徒達にとって良い刺激となったようでした。

厳しい条件の下で行われている治山工事を目の当たりにして、「森林管理署の